

中国語における陳謝／感謝の表現、対象と機能の関わり

谷口 龍子*

I. はじめに

台湾で、職場の同僚の仕事を手伝おうとしたときに、“不好意思”（＝恥ずかしい）と言われて困ったことがある。その表現が断りを示すのか、あるいは受け入れているのかが判断できなかつたのである。また、台湾の街では、頻繁に“謝謝”（＝ありがとう）という言葉が聞かれる。例えば、タクシーの運転手に対して“臺北車站、謝謝”（「台北駅まで。ありがとう。」）と行き先を告げるので、車が発車する前からなぜ「ありがとう」と言うのか不思議に思った経験もある。陳謝や感謝の表現は、どの言語にも存在するが、その行為の対象や機能は、言語や文化によって、大きく異なるようである。

本稿は、中国語における典型的な陳謝／感謝表現について、その表現と対象との関わりや、談話における機能を中心に考察する。

II. 先行研究並びに問題の所在

陳謝と感謝の発話行為に関する研究として、理論的なものには、山梨（1986）、熊取谷（1993）、Coulmas（1981）、彭国躍（2005）などがある。山梨（1986）は、Searle（1969）の日本語の感謝に関する適切性条件をもとに感謝と対照的な行為であるとして陳謝についても条件を示している。熊取谷（1993）は、Austin や Searle など従来の発話行為理論では一部の間接的行為が説明できない点を指摘し、発話行為の動機・目的、発話行為が行われる状況、表現形式や談話構成上の機能に着目し、新たな枠組みを提案している。Coulmas（1981）は、「感謝の対象」（object gratitude）や「陳謝の対

* 国際基督教大学比較文化研究科博士後期課程所属。2005 年度 COE 研究奨励金受給者。

象」(object of regret) への「恩」(indebteness) による一般モデルを提示している。また、彭国躍 (2005) は、日本語の謝罪発話行為をその表現と機能の類型に分類し、さらに下位分類を試みている。

ポライトネスの観点からのものとしては、謝罪の遂行意図に着目し、Brown and Levinson (1978) が、ネガティブ・ポライトネスとしての謝罪 (apology) を取り上げている。Owen (1983) では、“I’m sorry.” が、人間関係の不均衡を修復するために取る儀礼的な方略の一つとして挙げられている。

また、対照研究としては中田 (1989) が日本語と英語を対照しており、日本語には相手の自発的な行為に対する陳謝があることを紹介し、山梨 (1986) の条件に修正を加えている。

しかし、これまでの研究は、陳謝 (apology) と感謝 (thanks) の対象や言語表現が比較的明確に分類される英語の表現の基準に基づく研究が主流であった。しかしながら、中国語には、前述のように、申し出に対する“不好意思”(=恥ずかしい) といった陳謝か感謝かわからないような表現や“臺北車站、謝謝”(「台北駅まで。ありがとう。’) のような使い方が見られるので、談話における機能について考える必要性を感じる。⁽¹⁾

機能に関しては、Ide (1998, 509-529 頁) で、公共の場で使用される日本語の「すみません」の談話レベルにおける機能が 1. 正統的な陳謝⁽²⁾ (sincere apology) 2. 擬似感謝と陳謝 (quasi-thanks and apology) 3. 依頼表示 (request marker) 4. 注目要求 (attention-getting device) 5. 辞去 (leave-taking device) 6. 談話における肯定・応答 (affirmative and conformational response) 7. 相互の了解 (reciprocal exchange of acknowledgment) の 7 種類に分けられているが、管見の限りでは、中国語に関するものは見られない。そこで、本稿では、中国語の陳謝と感謝の表現や行為の対象となるものについて、先行研究にある日本語や英語との類似点や相違点を見ながら、談話における機能についても考察することにした。

Ⅲ. 用例の収集方法

脚本の評価が高い映画やテレビドラマの中から、方言が含まれず、登場人物、話者の世代や場面などが多様なものを選抜し、シナリオや文字起こしをしたものの中から“謝謝”(=ありがとう)、“對不起”(=すみません) などのような陳謝／感謝の定型表現が含まれる用例を収集した。中国語は、地域によって話し言葉の表現に大きな相

違が見られるので、台湾出身の脚本家による作品に絞った。したがって今回の考察の対象となるものは台湾地域で使用されている中国語である。

用例資料

シナリオ：『果醬』（ジャム）（2002）、『袋鼠男人』（カンガルー男）（1994）、『牯嶺街少年殺人事件』（1991）、『少女小漁』（1995）

映画：『薰衣草』（ラベンダー）（2002年頃）、『台北二一』（2004）、『戦神』（2005）、『推手』（2001）、『飲食男女』（1994）、『喜宴』（1993）、『流星花園』（2002年頃）

上記の資料から収集した用例数は、陳謝が100件、感謝が100件である。

また、数名のインフォーマントの話も参考にした。

IV. 分析結果と考察

1. 陳謝／感謝の表現

熊取谷（1988）を参考に、陳謝表現と感謝表現を分類した。“不好意思”（＝恥ずかしい）、“這怎麼好意思”（＝どうして気まずく思わずにいられようか）の表現のように、意味表示のレベルで、陳謝、感謝のいずれかに分けることができないものは、山梨（1986）の適切性条件に従い、行為の主体が話し手の場合は、陳謝、聞き手の場合は感謝に分類した。

“不好意思”（＝恥ずかしい）、“這怎麼好意思”（＝どうして気まずく思わずにいられようか）は、自分にとって恥ずかしい、決まりが悪いなどの意味がある。彭（1991）では、中国語の謝罪に関し、グライスの「強調の原理」とリーチの「丁寧さの原理」に加えて、「メンツの原理」を導入する必要性を提案しているが、中国語では、意味論のレベルにおいても、個人の面子に関わる表現を有していると言えよう。熊取谷（1988）では、日本語では、他者思考的表現「すみません」のほうが、自己思考的表現である「ありがとう」より丁寧であることを丁寧行動の方策として、日本語において慣習化されたものと説明しているが、中国語において心的態度の表明は、いずれも自己思考的な表現であることがわかる。

表1 中国語の陳謝／感謝表現⁽³⁾

() は件数

	陳謝表現	感謝表現
損害の事実の表明	我們來勞累你了 (= お疲れ様でした) (1) 麻煩你 (= 面倒をかけました) (2) 辛苦你了 (= ご苦労さまでした) (1)	
心的態度の表明	對不起 (= 申し訳ない) (68) 對不起啊 (= 申し訳ない) (1) 抱歉 (= すまなく思う) (10) 道歉 (= 遺憾の意を表す) (1)	我真的不知道該甚麼、才好… (= 何と言ったらいいかわかない) (1)
許しを聞き手に乞う	請你原諒我 (2) (= 許してください)	
行為遂行的表現		謝謝 ⁽⁴⁾ (= ありがとう) (82) 感謝 (1) 多謝 (= どうもありがとう) (1) 多謝了 (= どうもありがとう) (1) 謝了 (= ありがとう) (2) 非常感謝 (= とても感謝する) (2) 謝天謝地了 (= ありがたや、ありがたや) (1)
面子を失う表明	不好意思 (= 恥ずかしい) (13) 怎麼好意思 (= どうして気まずく思わずにいられようか) (2)	不好意思 (= 恥ずかしい) (9)

計

101⁽⁵⁾

2. 陳謝の対象、機能とその表現との関わり

表2) は、陳謝／感謝表現とその機能との関わりを分類したものである。日本語や英語の先行研究と比較しやすいように、陳謝／感謝の対象についての分類は、中田(1989, 192, 196 頁)を参考に分類した。

表2 陳謝／感謝の機能、対象と表現

機能	陳謝／感謝の対象		表現 () は件数
陳謝	身体・所有物の破損		對不起 (=申し訳ない) (1)
	行動や発言		對不起 (45)、抱歉 (=すまなく思う) (9)、道歉 (=遺憾の意を表す) (1)、請你原諒我 (=許してください) (2)、不好意思 (=恥ずかしい) (9)
	中座		對不起 (10) 不好意思 (2)
	注意喚起		對不起 (10) 不好意思 (2)
感謝	話し手の依頼	依頼の前置き	麻煩你 (2) 對不起 (1)
		聞き手の受諾に対して	謝謝 (=ありがとう) (4)
		行為遂行後	謝謝 (15)
	聞き手の自発	物をもらう	謝謝 (8) 感謝 (=感謝(する)) (1) 怎麼好意思 (=どうして気まずく思わずにいられようか) (1)
		世話、協力後	謝謝 (20) 多謝 (=どうもありがとう) (1) 非常感謝 (=とても感謝する) (2)、不好意思 (9)、我們來勞累了你 (=お疲れ様) (1)、我真的不知道甚麼、該、才好… (=なんと云ったらいいわからない) (1)、怎麼好意思 (1)、辛苦你了 (=ご苦労さまでした) (1)、抱歉 (=すまなく思う) (1)
		言葉 (ほめ等)	謝謝 (15)
		申し出・誘いに対して	謝謝 (8)
		神への感謝	謝天謝地了 (=ありがたや、ありがたや) (1)
依頼に添えて	(従業員→客)	謝謝 (4)	
	(客→従業員)	謝謝 (3)	
会話の終結表示			謝謝 (4)、對不起 (1)
皮肉 (不誠実な陳謝・感謝)			對不起啊 (1) 謝了 (2) 謝謝 (1) 多謝啦 (1)

計

201

(1) 依頼受諾に対する感謝 (S⁽⁶⁾ 依頼 → H 受諾 → S 感謝)

日本語では、依頼が受諾された際に、「よろしく願います」などの表現がよく使用されるが、中国語では、“謝謝” (=ありがとう) という感謝表現の使用が見られた。

今回のデータには見られなかったが、中国語では、依頼が受諾された際に、“我先說謝謝你” (=先に「ありがとう」と言っておく) という表現が使われることがあ

るようだ⁽⁷⁾。インフォーマントの話によると、この表現には、依頼を受諾してくれたことへの感謝の表示に加えて、先に礼を言うことにより、相手を断りにくくさせる目的があるという。

(2) 依頼に添える感謝表現 (S 依頼+“謝謝”)

用例には、依頼（あるいは注文）に感謝表現を添えるものが、7件見つかった。例1) は、客が店員に依頼する場面である。

例1) “麻煩來、一個杯子、謝謝” (すみません、コップ一杯、ありがとう) — 『流星花園』

ここでの感謝表現は、実質的な感謝の対象があるとは言いがたく、依頼機能の一部を構成していると考えられる⁽⁸⁾。

(3) 申し出や誘いに対する断りに使用される感謝表現 (H 申し出・誘い → S “謝謝” (断り/受諾))

相手の申し出に対して断る際に、感謝表現が使われる例が8件見られた。

そのうち、7件は、例1) のように、「断り+感謝表現」の連鎖であり、1件は、例2) のように、感謝表現のみで断りを示すものであった。

例2) “有沒有興趣一起跳舞？” (=一緒に踊らない?)

“不用了、謝謝” (=踊らない、ありがとう) — 『流星花園』

例3) “需不需要幫忙呢” (=手伝おうか)

“謝謝” (=ありがとう。) (相手の顔を見ないで)

“不用客氣了” (遠慮するなよ) — 『流星花園』

用例にはなかったが、中国語では、申し出や誘いを受諾する際にも“謝謝”の表現を使うこともあり、聞き手にとって、受諾されたのか、断られたのか判断が難しい場合がある。これは、日本語の場合、行為が遂行された時点のみで、感謝表現が使用されるのに対し、中国語では、行為の申し入れや受諾など、行為遂行前の未来のことが

らに対しても感謝表現が使用されることから生じる曖昧さであろう。

(4) 陳謝と感謝に使われる“不好意思” H 自発的な行為 → S “不好意思”
(陳謝／感謝)

相手の自発的な行為に対して“不好意思”を使用する例が9件、“謝謝”などの感謝表現を使用する場合は23件見られた。両者のいずれを選択するかについては、話し手が、対象となる行為を本来は誰が行うべきだと考えているかに大きく関わっているようである。

次の例は、高齢で仕事が遅い話し手を見るに見かねた年下の同僚が手伝いを申し出た際の場面である。

例4) 老朱「真忙起來、我也忙不了你」

(「忙しくなってきたから、放っておくわけにはいかない」)

小吳「小吳、真不好意思」(「吳さん、すみません」)

—『推手』

朱氏は本来自分が行うべき作業を、年下の同僚に手伝ってもらうことで、自分の面子がなく、“不好意思”という表現を使用したと考えられる。たとえば、子供が親から料理を取り分けてもらう場面のように、聞き手の行為が当然であると話し手が考える場合には、“不好意思”ではなく、“謝謝”の表現が使用されている。

中田(1989, 201-202頁)は、日本語では、自分にとってのプラスと相手のマイナスが表裏一体であると考えられる傾向が強く、陳謝と感謝が、ひとつの連続体に組み込まれる可能性をはらんでいると述べている。

中国語の“不好意思”(=恥ずかしい、きまりがわるい)という表現は、前述のように、相手の自発的な行為に対して使用される一方、“不好意思、天天來你們家打撈”(=恥ずかしい。毎日お宅へお邪魔して)のように、自分自身の行為を陳謝する場合にも使われる。また、祝福やほめなどへの対応に使用されることもないので、一見すると、日本語の「すみません」が有する陳謝と感謝の連続性と同一の性質を持っているようにみえる。しかし、“不好意思”の場合は、「すみません」の持つ自分にとってのプラスが相手のマイナスと表裏一体であるという連続性とは異なり、自分の行為が相手に迷惑をかけることも、相手から過分に恩を受けることも、いずれも自分の面子をつぶすという、あくまでも自己志向的な表現である点で、日本語の「すみません」

とは異なると言えよう。

(5) 会話の開始部／終結部に使用される陳謝／感謝表現

熊取谷（1994, 69頁）では、日本語の感謝表現が会話終結の前段終結（pre-closing）を形成することに言及しているが、中国語の“謝謝”は、電話を切る直前や、別れ際など、会話終結の最後で使用される例が多く見られた。

次の例は、留守番電話のメッセージテープである。

例5) “你好、我們剛好不在、(中略) 請留話、謝謝”（「こんにちは。今、出かけています。(中略) 伝言をお願いします。ありがとう。」）—『果醬』

日本語でよく聞かれる「すみません。ありがとう。」の表現と同様に、中国語でも相手の自発的な行為に対して“不好意思、謝謝”と連続した表現で終わらせることがよくある。

“謝謝”には、会話の終結部の後段終結の機能があると言えるだろう。

V. おわりに（まとめ）

以上見てきたように、中国語の陳謝／感謝の表現には、“不好意思”のように、面子に関わる表現があり、陳謝と感謝のいずれにも使用されることがわかった。しかし、行為が相手や自分にとってプラスかマイナスかを考えるのではなく、相手あるいは自分の行為が、自分（あるいは自分の地位）にとって面子をつぶすことであるか否かという自己志向的な観点から使用される点で、日本語の「すみません」が持つ陳謝と感謝の連続性とは異なることがわかった。

また、中国語の感謝表現は、依頼談話の構成要素として使用されたり、依頼の受諾に対して使用されるなど、未来の行為に使用されることがある。この表現の根底には、相手が行為を行う以前に、感謝を示すことによって、相手を断りにくくさせる意図が窺える。さらに、“謝謝”の表現は、会話の終結部の後段終結の機能もある。台湾の公共施設や商業施設などに張られている使用上の注意やお願いなどの文面にも最後に「謝謝合作」（ご協力ありがとうございます）の言葉で締めくくられているのも同様で、依頼に添える感謝表現であると同時に、文章の終結を示す意味を持っていると言えよう。

“不好意思”が、面子の観点からの表現であり、陳謝としても感謝としても使われる点は、従来の欧米語を中心とした Apology と Thanking の枠組みでは捉えられないことがわかる。

また、Brown and Levinson (1978) では、Apology がポライトネスの方策として存在することが指摘されているが、日本語と違って中国語の場合は、Apology より Thanking の表現の使用率のほうがはるかに高く、機能も複雑であることが予測される。今後はさらに多様なデータを収集した上で、新たな枠組みの設定を試みたいと思っている。

{謝辞}

本調査での資料収集の際には、元智大学薛云如先生と魏文真さんに大変ご協力いただきました。また、日本語用論学会第8回大会でのワークショップ発表の際には、京都外国語大学彭飛教授、神奈川大学彭国躍教授、関西外国語大学余維教授並びに天理大学前田均教授より、貴重なコメントをいただきました。英文要旨執筆にあたっては、肥爪淳子さんにもお世話になりました。

最後に、御指導くださいました広瀬正宜先生、根津真知子先生並びに古藤友子先生にも御礼申し上げます。

注

- (1) 熊取谷 (1998 : 229) でも同様のことが指摘されている。
- (2) 日本語訳は筆者
- (3) 本稿各表における中国語の表現の日本語訳は、『中日辞典』(小学館、初版第6刷)を参考にした。
- (4) “謝”という語には、“謝罪”(=謝罪する)、“謝過”(=過失をわびる)という表現があるように、「あやまる」「わびをいう」という意味もあり、意味論的には、陳謝と感謝の意を併せ持つと言えよう。
- (5) 1件の用例中、複数の陳謝／感謝表現が含まれていることから、用例総数と表現総数に相違が見られた。
- (6) Sは陳謝あるいは感謝表現の話し手、Hは聞き手を示す。
- (7) 臺灣大学陳明姿教授からお話を伺った。
- (8) 神奈川大学の彭國躍先生から、上海では、“謝謝、麻煩來一個杯子”という表現が使用されると

いうお話を伺った。

【参考文献】

- 赤堀由紀子 (1995) 「日本語母語話者の感謝表現」『待兼山論叢』(大阪大学文学部) 29号、49-63頁。
- Brown Penelope and Levinson Stephen (1978). *Politeness: Some Universals in language usage*. Cambridge University Press.
- Coulmas, F. (1981). *Poison to Your Soul: Thanks and Apologies Contrastively Viewed. Conversational Routine*, The Hague Mouton, 69-91.
- Eisenstein Miriam, W.Bodman Jean (1986). 'I Very Appreciate': Expressions of Gratitude by Native and Non-native Speakers of American English. *Applied Linguistics*, Col.7, No.2, Oxford University Press, 166-185
- Goffman Erving (1967). *Interaction Ritual*. Pantheon Books, New York.
- 彭飛 (2005) 『日本語の配慮表現に関する研究—中国語との比較研究における諸問題』和泉書院
- 彭国躍 (1991) 「『謝罪』行為の遂行とその社会的相関性について—日中比較社会語用論的視点から—」第101回大会研究発表要旨『言語研究』(日本言語学会) 99号、156-157頁
- (2000) 『近代中国語の敬語システム—「陰陽」文化認知モデル』白帝社
- (2005) 「現代日本語の謝罪発話行為の類型と機能」『日本語学』(明治書院) 4月号 vol.24、78-90頁
- Ide Risako, (1998). 'Sorry for your kindness': Japanese interactional ritual in public discourse. *Journal of Pragmatics*, 29, 509-529.
- K・メイナード・泉子著 (2001) 『恋するふたりの「感情ことば」』くろしお出版
- 熊谷智子 (1993) 「研究対象としての謝罪」『日本語学』(明治書院) 11月号 vol.12、4-12頁
- (1997) 「はたらきかけのやりとりとしての会話」『対話と知』(新曜社)、21-46頁
- 熊取谷哲夫 (1988) 「発話行為理論と談話行動から見た日本語の「詫び」と感謝」『広島大学教育学部紀要』(広島大学) 第2部第37号、223-233頁
- (1993) 「発話行為対照研究のための統合的アプローチ—日英語の「詫び」を例に—」『日本語教育』(日本語教育学会) 79号、26-40頁
- (1994) 「発話行為としての感謝—適切性条件、表現ストラテジー、談話機能」『日本語学』(明治書院) 7月号 vol.13、63-72頁
- 三宅和子 (1994a) 「「詫び」以外で使われる詫び表現—その多様化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係—」『日本語教育』(日本語教育学会) 82号、134-146頁
- (1994b) 「感謝の対照研究—日英対照研究—文化・社会を反映する言語行動」『日本語学』(明治書院) vol.13 7月号、10-18頁

- 中田智子 (1989) 「発話行為としての陳謝と感謝」『日本語教育』(日本語教育学会) 68号、191-203 頁
- 奥津敬一郎・沼田善子 (1985) 「日・朝・中・英のあいさつ言葉」『日本語学』(明治書院) 8月号 vol.4、53-69 頁
- Owen, Marion (1983). *Apologies and Remedial Interchange*, New York: Mouton.
- ポイクマン総子・宇佐美洋 (2005) 「友人間での謝罪時に用いられる語用論的方策—日本語母語話者と中国語母語話者の比較」『語用論研究』(日本語用論学会)、31-44 頁
- 佐久間勝彦 (1983) 「感謝と詫び」『講座日本語の表現 3 話しことばの表現』(筑摩書房)、54-66 頁
- Searle, J. R. (1969). *Speech Acts: An essay in the philosophy of language*, Cambridge Univ. Press.
- (1975). Indirect speech acts. *Syntax and Semantics 3: Speech Acts*, New York: Academic Press, 265-277.
- サール, J. R 著 坂本百大・土屋俊訳 (1986) 『言語行為』勁草書房
- Spencer-Oatey Helen (2000). *Culturally Speaking*, continuum.
- スペンサー＝オーティン・ヘレン編著 浅羽亮一監修 (2004) 『異文化理解の語用論』研究社
- 谷口龍子 (2005) 「依頼の談話に見られる中国語の感謝表現：日本語との対照」『日本語用論学会第 8 回大会予稿集』(日本語用論学会)、22-24 頁
- 山梨正明 (1986) 『新英文法選書 12 発話行為』大修館書店
- 横田淳子 (1985) 「ほめられた時の返答における母国語からの社会言語学的転移」『日本語教育』(日本語教育学会) 58号、203-217 頁

On Expression, Subject, and Discourse Function in Chinese Apology and Thanking

〈Summary〉

Ryuko Taniguchi

Apology and thanking are the speech acts performed in relative frequency in daily encounters, and each act possesses their own distinctive features. This study examines typical expressions of apology and thanking in Chinese language from the perspectives of subject-expression relation and discourse function.

Many of the previous studies on the topic feature English usage in their analysis of speech act. However, in the case of Chinese, the utterance of the expressions of apology and thanking does not necessarily translate as the accomplishment of the act. With this in sight, this paper aims at analysing expression, subject, and discourse function of apology and thanking in Chinese languages. Similarity and difference in the corresponding expressions in Chinese, Japanese, and English are examined with references to the existing studies, together with film and TV drama scripts and the transcripts of recorded conversations as data sources.

“Buhaoyisi”, a Chinese expression concerning the loss of “face” which is customarily translated ‘I am embarrassed’, shares functional similarity with Japanese word, “sumimasen”, as both expressions are commonly employed to convey “the speaker’s gratitude towards the listener in situations that require apology or thanking. However, the underlying rhetoric of the apology/thanking continuity in these expressions shows considerable difference; with “buhaoyisi”, it is the assessment on the “face” of the speaker alone that supports its function, while with “sumimasen” it is the duplexity of the gain and loss between the speaker and listener. In other words, “buhaoyisi” is self-oriented in a sense that its intended function is derived from the admittance of the speaker’s own loss of “face”, while “sumimasen” is other-oriented and derives its function from the

acknowledgement of the listener's loss of convenience etc. as the speaker's gain.

Chinese expressions of thanking often appear as part of the request-making discourse, or as response to the consenting reply; thus, thanking is made in anticipation of the listener's future conduct. This kind of use suggests the speaker's intention for reducing the chance of being declined. Chinese thanking expression also function as the ending mark of conversation or text. "Xiexie hezuo" (meaning 'thank you for your cooperation') that appear at the end of the notices and Bulletins in Taiwanese public and commercial quarters may be interpreted as a sign of ending as well as an expression of gratitude to accompany requests.

The self-orientation and the continuous apology/thanking spectrum found in the rhetoric of "buhayisi" reveals the inadequacy of the present theoretical framework based on the binary concept on apology and thanking as prevalent in European languages. Also, the comparatively high frequency of the appearance of thanking expressions in comparison to apology-making expressions suggests that thanking expressions bear complex functions to accomplish multiple tasks in Chinese. Our next step would be an attempt to establish a new theoretical framework on apology and thanking through further study on the expressions concerned and their pragmatic functions in details.